

老いた落語家が語り継ぐ、叛骨の僧侶の言葉

明日へ

戦争は罪悪である

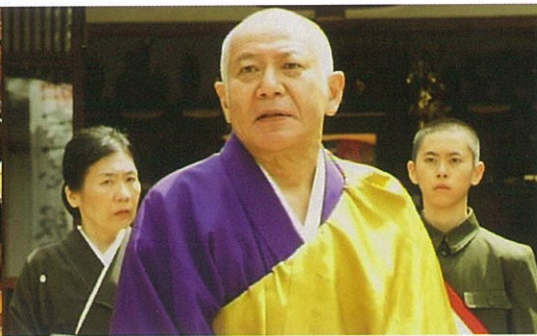
「日本の青空」シリーズ

中原 丈雄

小倉 レイ 奥山 琴夏 石住 昭彦
江村 修平 上杉 陽一 みひろ あき 関 貴昭 東房 大河
谷川 清美 旭屋 光太郎 三上 祥弘 白井 良次 西村 諭士
小倉 一郎 森澤 匡晴 山中 雅樹

上條 恒彦

松本 ふみか 岡本 富士太 服部 演之 渡辺 穰



ぼくに落語を
教えてくれた
和尚は、
「戦争で、
人殺しだけは
するな」
と言った

〔監督〕藤 嘉行

〔企画・製作〕小室 皓充

〔脚本〕土屋 保文

〔音楽〕遠藤 浩二

〔撮影〕瀬川 龍

〔照明〕佐藤 宗史

〔録音〕鮎田 秀彦

〔装飾〕中谷 暢宏

〔助監督〕桑原 昌秀

〔編集〕川瀬 功

〔記録〕吉田 純子

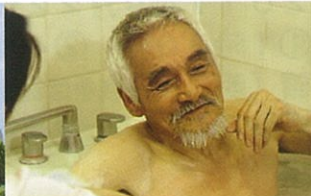
〔メイク〕葉山 三紀子

〔衣裳〕村島 恵子

〔ラインプロデューサー〕須永 裕之

〔製作〕日本の青空シリーズ『明日へ』製作委員会
(有)インディーズ

〔製作委員会〕小室 皓充 滝本 将 一芝 竹夫 平野 寛



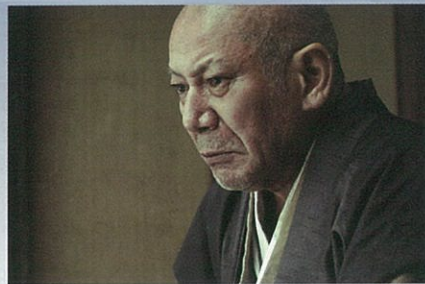
仏の教えの第一は「^{ふ せっ しょう}不殺生」 人の命を損なう戦争は罪悪である

戦争は罪悪である
明日へ

◆あらすじ

2015年の秋、安保法案に反対する国会前のデモの様子がテレビのニュース番組で放映されている。長年、高座で反戦平和を語り続けてきた落語家、金山亭我楽こと藤尾純次(岡本富士太)は、98歳になった今、老人ホームで居ても立ってもいられず車椅子でデモに参加しようとするが、介護士の由希奈(松本ふみか)に外出を止められる。戦争を知らない世代の由希奈に、純次は噺家への道を開いてくれ師匠とも仰いだ一人の僧侶・杉原良善(中原丈雄)のことを語り始める。

1932(昭和7)年、日中戦争から太平洋戦争に向かう戦争の時代。瀬戸内海に浮かぶ小島に暮らす13歳の純次は落語好きな少年だった。純次の父親は落語よりも学校の勉強に専念するよう諭してもらおうと良善の寺を訪れる。ところが良善は、純次に落語をやるよう逆に背中を押してくれる。やがて東京に出て落語家になった純次(小倉レイ)は、20歳となり出征の日を迎える。島での出陣式で、良善は突如「戦争は罪悪で人類に対する敵、すぐにでも止めたほうがええ」と村人を前に語り始め、純次たちを驚かせる。それまで戦争に協力する説教を語っていた良善のこの変化には何があったのか……。



戦争への悪縁を潰しましょう

花園大学総長 河野太通

1930年、大分県生まれ。龍門寺(兵庫県姫路市)住職。臨済宗妙心寺派前管長。全日本仏教会元会長。

この作品の台本を読んで泣いてしまった。あの時代に、このような良心の人、慈悲の人、まことの仏教者の居たことに。戦前・戦中を軍国少年で過ごした私は、救われる思いをするのである。

今、かの戦争ころがっていた日本の社会状況と同じだという危機感を持たざるを得ない。是非、この映画をご覧いただいて、悲惨な過ちをくりかえすことになる悪縁を潰しましょう。

◆かいせつ

劇映画『明日へ—戦争は罪悪である—』は、かつて国を挙げ、国民を挙げて戦争に突き進んでいった第二次世界大戦中、檀家から誹謗され、宗門からも懲戒され、特高警察に逮捕されながらも、「仏教の教えの第一は不殺生、人の命を損なう戦争は罪悪である」との主張を曲げなかった岐阜県垂井町の竹中彰元師(当時70歳)をモデルに、戦後、その僧侶の生き方に影響を受けた老落語家が戦争を語り継ぐ物語として創作したもの。

監督は、橋爪功主演『天才刑事・野呂盆六』(ABC)シリーズなど、テレビドラマで活躍中の藤嘉行。主演はNHK連続テレビ小説『花子とアン』や大河ドラマ『真田丸』などの中原丈雄。上條恒彦、岡本富士田、小倉一郎らベテランが若い出演者らの脇をかためている。憲法誕生の秘話を描いた『日本の青空』('07年/大澤豊監督)をはじめ、『いのちの山河〜日本の青空II』('09年/大澤豊監督)、『渡されたバトン さよなら原発』('12年/池田博穂監督・ジェームス三木脚本)などに続く「日本の青空」シリーズ最新作。

完成披露有料試写会

<製作協力券で入場鑑賞できます>

会場 ドーンセンター大ホール(京阪 天満橋)

日時 2017年9月22日(金)

上映時間 ①1時30分 ②4時 ③6時30分

主催 劇映画「明日へ—戦争は罪悪である—」上映実行委員会

お問合せ 西岡健二 090-9864-6558 一芝竹夫080-8341-1188

前売り券発売中

一般大人 ¥1200

当日券は

一般大人 ¥1500

学 生 ¥1000

中・高生・障がい者

¥ 800